

8-4-11 鉄道専門委員会

1. 主な活動の記録

- (1) 委員会の開催
専門委員会の開催回数：9回
- (2) 鉄道専門委員会セミナーの開催
若手および中堅技術者を対象とした、鉄道に関するセミナーを年2回計画。
 - ・7月4日（水）協会会議室
「頻発・大規模化する自然災害に対する備え」
講師 神田 政幸氏
公益財団法人 鉄道総合技術研究所
参加者 76名
 - ・12月3日（月）協会会議室
「若手技術者のためのコンクリート構造物の設計」
講師 岡本 大氏、田所 敏弥氏
公益財団法人 鉄道総合技術研究所
参加者 80名
- (3) 「品質セミナー」のためのエラー事例の収集と分析を実施。昨年に引き続き、委員出身各社からエラー事例を収集し整理した。昨年までの134例に10例を追加し144例とした。
また品質セミナーへの参加は隔年としていたため、今年度は参加しなかった。
- (4) RCCM教材の改訂
RCCM自主学習システム教材の全体の1/4程度の改訂でナレーションの変更（レベル2）も実施した。また、演習問題も追加した。
- (5) 「鉄道土木の計画・調査・設計報酬積算の手引き」（改訂第11版）に関する改訂および普及活動
「鉄道土木の計画・調査・設計報酬積算の手引き」（改訂第11版）増刷に合わせて、誤植箇所を修正した第2版を発行した（150部）。これに合わせて、正誤表を建コンの一般用ホームページに掲載することにした。今後もその普及につとめていく。特に地方自治体（県、市町村）を中心に説明を実施する。

- (6) 「報酬積算の手引き」（改訂第11版）に関する質疑対応

「鉄道土木の計画・調査・設計報酬積算の手引き」（（一社）建設コンサルタンツ協会 改訂第11版）に対する質疑について対応した。質疑件数は、54件であった。

- (7) 独立行政法人 鉄道・運輸機構との協議

独立行政法人 鉄道・運輸機構と設計歩掛の作成について要望・意見交換を行った。また、歩掛実態調査に対して協力した。

- (8) 「橋梁と基礎」への執筆

「橋梁と基礎 8月号 特集 新幹線橋梁」に「整備新幹線橋梁の設計現場」と題して論文を投稿した。

2. 次年度の活動について

次年度の活動としては、継続的な作業として年2回の「鉄道セミナー」開催、エラー事例の収集（次年度は講師を派遣する予定）と分析及び品質セミナーWGの参加、RCCMの自主学習システム教材改訂、「鉄道土木の計画・調査・設計報酬積算の手引き」（第11版）の普及を実施して行く。なお、RCCMの自主学習システム教材改訂は、大幅な改訂を目指していく。

また、次年度は鉄道・運輸機構との意見交換会が実施される予定であり、具体的な要望を整理していく予定である。

さらにできれば、若手技術者のための鉄道技術に関する小セミナーや現場見学を検討する。

その他、鉄道総研、鉄道・運輸機構等への窓口として、技術標準の改定に伴う資料の収集と展開などの役目を果していく。

（鉄道専門委員会委員長 吉村 剛）